

平成 26 年 度

(自 平成 26 年 4 月 1 日～至 平成 27 年 3 月 31 日)

事業計画書

公益財団法人 京都国際学生の家

平成 26 年度 事業計画

I. 概要

1. 本年は、法人が設立許可を得て 50 年、京都「国際学生の家」が開館発足して 49 年に当たる。また法人として、財団法人から公益財団法人へ衣替えして 2 年目となる。開館以来、49 年間に世界 79 ケ国から 938 名の若者が寮生として住み、それぞれ貴重な体験を得て帰国している。また併設されている 14 の研究員等宿泊室を利用した学者研究者は 94 ケ国から 2922 名の多きにのぼり、これらの人々は京都における学際的研鑽の成果と共に、この「家」で体験した人間同士の愛と連帯意識をもって世界中で活躍している。
2. 当法人の目的は定款第 3 条に示すように、「京都に学ぶ各国学生の健全で有意義な共同生活を助成するとともに、その知性、徳性及び靈性の向上をはかり、併せて国際親善と相互理解の増進とに寄与し、もって不特定多数の公益に寄与することを目的とする。」ところにある。ひきつづき、この目的を達成するために必要とする諸事業を計画・実行する。
3. 平成 25 年度に当財団の建物の耐震診断を行った結果、耐震補強が必要であることが判明した。そこで、将来計画委員会を立ち上げて、建物の建て替えも踏まえた、当財団の将来のあり方を検討する。また、平成 27 年の 50 周年式典に向けての準備を進めて、もう一度当財団のあり方を検討したい。
4. この学寮には、常時日本人ハウスペアレントをはじめ、内外学生 34 名、内外研究者 18 名が生活を共にしている。学寮の維持運営と留学生のための各種行事活動を実施してゆくには、広く各方面の理解ある援助を仰ぎ必要財源を補って行かねばならない。現在経常的に財政的援助をうけているのは、次のとおりである。
 - 1) 京都市
 - 2) ライオンズクラブ、国際ソロプチミスト京都一たちばな等
 - 3) 後援会員、有志個人及び団体法人の運営に当たって、こうした理解ある援助は、財政的、精神的両面から大きな支えとなっている。特に昨年度は、公益法人となり、寄附金に対する「所得控除」を受けられることになったが、寄附者にとってよりメリットを受けられる「税額控除」の資格を得られるよう、多くの寄附者を集める努力をしてきた。本年も引き続き「税額控除」資格を得られるよう寄附者を増やす活動を続ける予定である。

II. 事業

法人は、その目的を達成するために、次のような事業を行うことになっている(定款第 4 条)。

1. 学生及び研究者の国際的宿泊施設の設置及び運営
2. 不動産の管理と運営

3. その他公益目的を達成するために必要な事業

○ 公1 学生及び研究者の国際交流の場としての宿泊施設の設置及び運営

「国際学生の家」の規模

区分	学 生	研 究 者	備 考
収容部屋数	34室	14室	研究者用にはツインルーム 5室がある。
使用料	月額 30,000円	月額 54,000円 ～78,000円	
共通経費	月額 4,100円	使用料に含む	自炊設備、シャワー設備がある

入寮は、春・秋の年2回であって希望者を公募し、学寮運営委員会が面接選考の上決定している。

研究者については、随時申し込みを受け付け、ハウスペアラーが諾否を決定することになっている。滞在期間は原則として、半年から2年と設定しているかが、入居・選定の手続きを経た場合は、1ヶ月以上であれば入居を認めている。

○ 公2 国際親善と相互理解の増進に寄与する事業

内外の事情ならびに風習の紹介や学生達の教養・娯楽並びに親睦の推進のため、次のような定例的な活動や、特別な行事を行う。

1) 定例的な活動

- ① 一年を二期（前期と後期）に分け、学生達の代表（議長、副議長、書記、会計など）を選出し、ハウスペアレントと一緒に「チーム」という組織を結成し、その自治活動を通じて、相互の協力と理解、親善を深め、共同生活への自覚と円滑な学寮運営に資する。各寮生は、寮全体の何かの仕事（ジョブ：例としてコモンミール当番）や各種行事の当番に着き、学寮運営に参加し、寮生活自体を通じて、寮の趣旨を实践する。
- ② 毎週1回チーム・ミーティング（学生代表とハウスペアレント）及びハウス・ミーティング（寮生全員とハウスペアレント）を行い、寮生の行事活動を中心とする自治活動及び寮生活の諸問題についてハウスペアレントと、寮生の話し合いの場を持つ。また、食を通じて交流をはかる夕食会（コモンミール）を行う。

2) 京都市留学生対策補助金による活動

- ① ほぼ月に2回金曜日にハウスペアレント、職員及び全寮生及び研究員等が一堂に会して、コモンミールを行う。
- ② 春・秋の2回、日本の文化や文化財、宗教、風俗習慣に触れるため、ハウスペアレント、職員及び全寮生（研究員等も参加）の研修旅行を行う。
- ③ 講演・年2回程度、研究者・文化人・OM等によるセミナーを、寮生・地域住民を対象に開催する。
- ④ 年に一度(前期)、学生達を中心になって、周辺住民と食を通じて国際交流・親睦をはかる「国際食物祭り」を開催する。
- ⑤ 年に一度(後期)、お世話になっている人々を招待して、日頃の支援に感謝を表す「感

謝祭」を開催する。

3) 会誌の刊行

年に一度発行している YEARBOOK は、当学寮がどのような国際交流活動しているかを広く知って頂き、国際交流・親善と相互理解の増進に資する内容として企画・発行されているもので、国内外に広く 配布している。現在の配布先は、各国大使・領事館や京都府、京都市などの国際交流関係、各大学の国際交流関係、国内外の OM や後援会員、本学寮関係者、学生・研究者等である。但し、YEARBOOK の製作費や送料など、財政的に圧迫してきたこともあり、ホームページの刷新の後には、誰でもアクセス、ダウンロードできるようにする計画である。また、これまで、コモンミールで作られ、特に好評であった国際的なレシピを YEAR BOOK に掲載している。将来、レシピ集の刊行を考えている。

4) その他の活動

- ① スポーツ大会：本学寮独自の「スポーツディ」を開催する。
- ② ダンスパーティや学園祭に参加：学生や友人達との交流や親睦及び寮の広報活動の一環として行う。

○ 収 1 不動産等の管理と運営

寮の空きスペースを利用して、駐車場を設置し、後援会会員に貸与を行っている。区画数 19 台あり、空きが出た場合には、駐車場に掲示するとともに、近隣住民の後援会会員に連絡し、募集を行っている。その他、当学寮生・研究者等の利便性ために自動販売機を 1 台設置している。

III. 学寮の収入源の確保と長期計画の策定

公益財団法人へと移行するとはいえ、当財団の基本的な活動方針は変化するわけではない。今後も一層の収入の確保、支出の削減に励み、財団が将来にわたって活動していけるようにしていかなければならない。

そのための収入確保の施策として公益財団に認定されたこの時期を捉えて、より一層の広報活動を行い、後援会員の法人会員を増やし、大学関係だけでなく一般企業との交流を進める仕組みを整えていきたい。また、近隣住民の後援会員を増やし、まだ余裕のある駐車場スペースの利用者を確保する。

また、3.11 以降に、耐震について関心が高まっているが、国際交流を標榜し、多くの学生・研究者等を預かっている当財団としては、寮生の安全確保は最優先されるべき課題である。京都市より当財団の建物の耐震診断の結果を報告するようにとの通達を受け、平成 25 年度に簡易の耐震診断を受けた。本館、西館ともに古い耐震規格で建設されているので、耐震補強を将来的に検討しなければならないことが簡易診断より明らかになった。他方で、財団の長期的な運営を目指せば、耐震補強をすることなく、全館の建て替えまで視野に入れた長期的な計画を策定する必要がある。そこで、平成 26 年 1 月 12 日には理事長の特命で、理事、評議員、学寮運営委員等呼びかけ、拡大役員会議を行った。本年度に正式な将来計画委員会

を立ち上げ、長期計画の策定を図る。また、建て替えや耐震補強には多額の費用を必要とするため、直ちに工事を行うことは難しいこともあり、ハウスペアレント、レジデント、スカラヤやオフィスの人達の安全確保を図るために、防災訓練、震災に関する知識の習得のためのセミナー等を開催する。